

# 建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム

## 第13期(2018-2019年)総会

開催日時 2019年8月23日(金)午前10時30分より午前11時30分  
開催場所 公益財団法人 建築技術教育普及センター内 大会議室

# 建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム(DAAS)

## 第13期(2018-2019年)総会次第

開催日時 2019年8月23日(金)午前10時30分より午前11時30分

開催場所 公益財団法人 建築技術教育普及センター内 大会議室

### 1 開会挨拶

竺 覚暁 建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム 理事長

### 2 来賓挨拶

### 3 議 事

議案1 第12期(2017-2018年事業報告(案)及び収支決算(案)について

資料1 第12期(2017-2018年)事業報告(案)

資料2 第12期(2017-2018年)収支決算(案)

監査報告

資料3 監査報告書

議案2 第13期(2018-2019年)事業計画(案)及び収支予算(案)について

資料4 第13期(2018-2019年)事業計画(案)

資料5 第13期(2018-2019年)収支予算(案)

議案3 理事・監事選任の件

資料6 第13期・第14期 理事・監事名簿(案)

### 4 報 告

資料7 会員名簿変更について

資料8 規約第7条第4項に基づく指定代表者の変更について

### 5 閉 会

議案1 第12期(2017-2018年)事業報告(案)  
及び収支決算(案)について

資料1 第12期(2017-2018年)事業報告(案)

資料2 第12期(2017-2018年)収支決算(案)

監査報告

資料3 監査報告書

## 第 12 期 (2017-2018 年) 事業報告 (案)

## 1. 概要

予算縮小という厳しい状況の中、基本活動の「Web サイト等基本システムの維持・管理」「収蔵データの維持・保全」及び、国庫補助金を活用した「コンテンツ拡充」「Web サイト改修」「建築情報(データベース)の精度向上」においては、昨年度までと同等の事業成果をあげた。喫緊の課題である、今後の運営方針・運営体制については連携先の検討も含め関係箇所との調整をすすめている。

## 2. 事業実施状況

## (1) Web サイト等基本システムの維持・管理

サーバ保守業者によるサーバ OS、周辺アプリケーションの定期的な更新やサーバ環境のセキュリティ対策等々、これまでの体制を維持継続している。

## (2) 収蔵データの維持・保全

DAAS の資産の一つ「高精細画像データ」の破損と消失を防ぐことを目的として、事務局内保管と、データ保管専門業者の遠隔地のデータ保管サービスの併用を継続して行っている。

また「データの維持・保全」として、建築情報データベースの精度向上を目的としたデータの修正作業を継続し、特に建物の緯度経度による位置情報、建物作品の現況情報(現存・解体 等)、検索性向上を目的とした検索キーワードの付与等、情報の改善につとめている。建築情報の変更を簡便にするための管理システムの改修も実装した。

(1)及び本事業はデジタルアーカイブの基本活動であるため、今後も予算を優先的に確保し継続する。

## (3) 運営基盤の安定化にむけた検討

第 12 期では、第11期までに検討を行ってきた事項の実現のため、以下の整理、関係先への相談等々を行った。

## ① 現状整理

(ア) 会員の状況、収入、予算見込み

(イ) 今後の選択肢の整理

(ウ) 資料の著作権状況の整理

## ② 体制の検討

(ア) 合併、統合、事業譲渡、等を含めた関係先の検討

## (4) コンテンツの整備

動画収録、デジタルデータ作成

Web コンテンツ作成等業務の受託により(国庫補助金 300 万円)新規コンテンツ制作を行った。第 12 期の成果については別紙 1 にて詳細を報告する。

なお、本受託業務におけるコンテンツの整備は、実施年度と DAAS の事業年度が一致しないことから、第 13 期継続事業として進める。

#### [第 13 期コンテンツ整備事業(継続事業)]

- ・動画収録(DAAS 収蔵作品の建築家、写真家等)
- ・VR(ヴァーチャルリアリティ)を利用した空間画像データ
- ・アライアンス関係にある JIA-KIT 建築アーカイヴスが保管する図面資料のデジタルデータ化作業

#### (5) Web サイトの改善

新規コンテンツ収蔵((4)で制作したコンテンツ)に必要な新規ページの制作と(2)の収蔵データ維持にかかるシステム改修を行った。また Web サイトの資料の検索のしやすさ、画面の見やすさを検討し、システムの改善を行っている。主な改修事項としては以下

- ・一覧写真のサムネイル数の変更 表示内容の変更
- ・詳細情報画面の写真データの表示方法(縦スクロールからボタンによる表示切り替えに変更)
- ・管理システムの変更(情報変更画面の改修・サジェスション検索ワードの登録、等(2)再掲)

「(4)新規コンテンツの整備」と連動し、第 13 期継続事業とする。

#### (6) その他

##### ① オープンアライアンス活動

(オープンアライアンスとは、同じ目的を持つ異なる企業・団体が組織の枠組みを超え、知識、技術、等を協力した状態で活動すること)

これまで JIA-KIT 建築アーカイヴスの保存する物理的資料(図面・写真・フィルム等)のデジタル化において DAAS が作業を行うなど、継続的にアライアンス活動をおこなってきた。第 12 期は(4)の事業に於いて DAAS がデジタル化作業を実施した図面の所有者が収蔵先を検討していた為、同アーカイヴスを紹介。管理体制が万全であり、十分な保管場所が確保され、資料が一括で保管されるという点が所有者にとって利点であったことから、資料は同アーカイヴスに収蔵されることとなった。同資料のデジタル化作業は引き続き DAAS で行うことを検討している。

##### ②その他 DAAS の目的に資する活動状況

###### 1)有償利用について

第 12 期における収蔵データの利用については国内から 4 件、海外から 1 件(その他 1 件は保留中)合計 5 件の申し込みがあった。

利用目的は展示、書籍掲載などである。いずれも設立時褪色補正をした高精細画

像、60-70年代の建築作品に関する写真データの申込みであった。海外からは DAAS-Web サイトを通しての問い合わせを受けた。

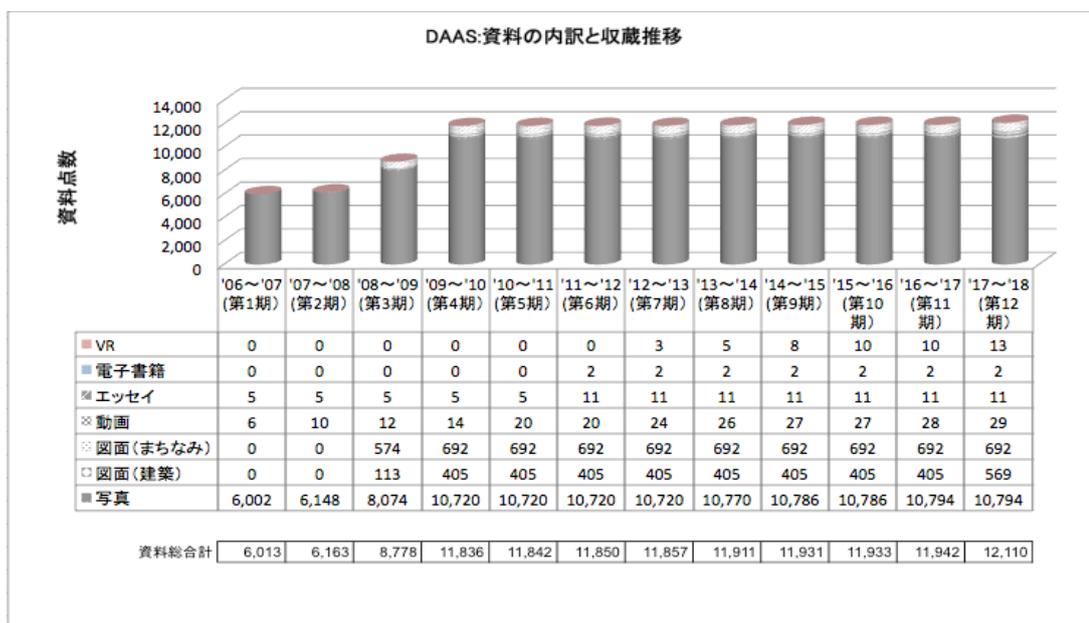
- 長谷工ミュージアム
- 森美術館
- 国際文化会館
- 一般財団法人日本建築センター
- Swarthmore College

海外からの申込みは日本の建築史を専攻する大学関係者からの紹介、DAAS を利用した米国の建築史家から紹介を受けたドイツの雑誌社からの問い合わせなど「日本の近代建築」に関わる方の中で DAAS-Web サイトの利用が少しずつ増えている状況伺える申込みであった。

● 設立から第 12 期までの DAAS の活動と登録者、閲覧者数の推移(報告)

①資料収蔵数推移(累計)

2011 年 UIA 大会以後の第 6 期からは団体会員の協力による表彰作品資料の収蔵数と国庫補助金の活用による動画、VR の収蔵、図面のデジタルデータ化など、少しずつではあるが、資料数を伸ばしている。

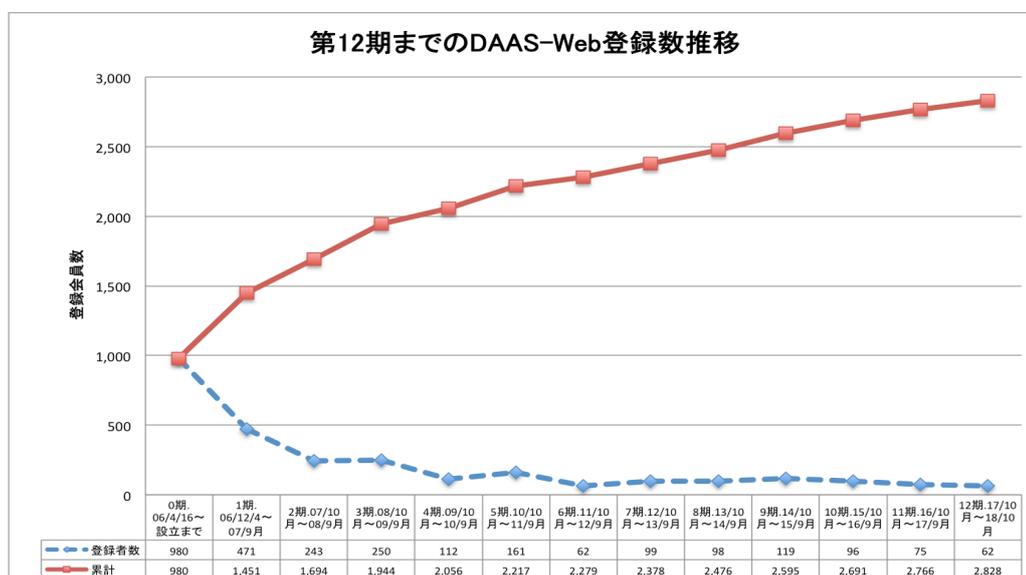
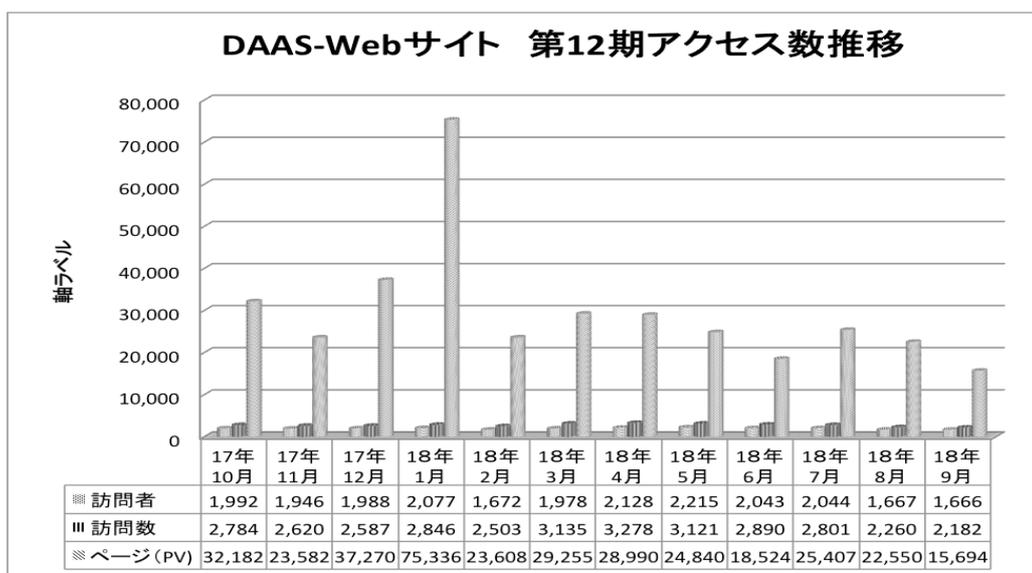


②Web サイトアクセス数推移及び、DAAS-Web サイト登録者数推移(累計グラフは次ページを参照)

(表内「訪問者数」に対し「訪問数」は「延べ数(同一 IP からのアクセス数)」である。)

第 12 期累計としては訪問者 23,416 人、延べ訪問数 33,007 人となり、第 11 期訪問者総数 21,839 人、延訪問数 32,480 人と比較して、訪問者数、ページビュー共に増加している。登録者数についての大きな伸びはみられないが、訪問数が伸びていることからリピーターの利用が多いと予想される。

近年国費にてコンテンツが制作されていること、また動画コンテンツは年々変化するファイル形式の管理の簡便さから Youtube の利用をすすめていることなどの理由から、今期より Web サイトの会員登録やログインなしでの閲覧を可能とした。併せて読み物コンテンツや VR の閲覧も登録・ログインを不要とした。ただし、写真・図面資料の閲覧は、資料提供者への配慮とセキュリティの観点から、これまでと同様、会員登録を必要としている。このため新規登録については、写真閲覧目的のための登録ということになる。DAASの収蔵する資料や動画コンテンツの「建築家の声」は、60-70年代の建物を対象としたものが多い。それらは近年取壊しの危機に直面にしている。動画コンテンツ内の建築家の「声」を SNS で発信し、取り壊しの危機にある建物の設計当時の「建築家の思い」を伝えることも微力ながら行っている。半年ほど前に掲載した菊竹清訓氏の出雲大社庁の社の該当箇所を編集した短編版を facebook で紹介したところ再生回数が 300 回を超えた。また、宮城大学では課題に関連して、DAAS の動画を利用している。コンテンツを活かす方法を今後も検討していきたい。



## 優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスの Web コンテンツの作成等業務について (報告書より抜粋)

本書は、建築・空間デジタルアーカイブス登録用コンテンツの作成等業務として 2017 年 10 月 1 日より 2018 年 2 月 28 日までに実施した、作業概要について記述した報告書である。

### 1. インタビューコンテンツ（オーラルアーカイブ）制作詳細及び成果報告

本事業の作業行程と共に各作業での成果報告を記述する。

#### 1.1. インタビュー対象者及び所属等

長谷川逸子(はせがわいつこ)氏

建築家。静岡県生まれ。関東学院大学、東京工業大学を経て、1979 年長谷川逸子・建築計画工房（株）設立、主宰となる。1986 年日本文化デザイン賞、日本建築学会賞を受賞。一方、早稲田大学、東京工業大学、九州大学などの非常勤講師、米国ハーバード大学の客員教授などを務め、1997 年王立英国建築協会（Royal Institute of British Architects）より名誉会員の称号。2000 年第 56 回日本芸術院賞受賞。公共建築賞受賞。2001 年ロンドン大学名誉学位。2006 年アメリカ建築家協会（AIA）より名誉会員の称号。2008 年フランス Pont d'issy 周辺の再編成コンペ 1 等賞獲得。2018 年英国王立芸術院(Royal Academy of Arts)よりロイヤルアカデミー建築賞授与

#### 1.2. 収録方法・行程詳細

##### 1.2.1. インタビュー企画の趣旨説明及び事前打合せ

撮影対象者へ協力依頼をし、趣旨・企画内容の説明、及び必要な情報の確認、撮影場所等について、打合せをし、収録内容を決定した。

今回は撮影対象者の希望により、建築作品のある場所でのインタビュー、作品解説を行うこととした。

##### 1.2.2. 企画内容の決定

(ア) 伝えたい事 : 多様・異質を引き受け持続していく場としての建築 市民参加による市民が見える公共建築

(イ) 収録内容:

章1 建築の出発点

章2 多様を引き受ける

章3 ふるさとの風景

章4 次世代への継承

- (ウ) 映像制作の目的: 想い、メッセージを伝える  
建築の設計において「使う人の立場で考える建築」  
その思いを育んだ子供時代  
学生時代のこと  
次世代の人々に伝えること
- (エ) 収録方法  
インタビューは約2～3時間程度。必要があればその作品内での解説映像の撮影を行う。
- (オ) その他  
必要な挿入資料、ロケーション場所への撮影許可確認、撮影スケジュールの調整、編集時の進行チェック、また、インタビュー・撮影者・スタッフ向けの情報の収集及び必要資料の作成(以下 (ク) に添付)は DAAS 事務局にて行う。また撮影会社への指示、デザイナーの指示のとりまとめも DAAS 事務局で行う。撮影は、撮影会社への依頼を行い、編集時に利用するタイトル、テロップ等の作成は、デザイナーに依頼する。
- (カ) 撮影場所: gallery IHA
- (キ) 撮影スタッフ  
インタビュー : 六反田千恵氏(長谷川逸子・建築計画工房)  
撮影(カメラ) : 後藤大輝氏(すみだクリエイターズクラブ)  
ディレクター : 三田大介氏(すみだクリエイターズクラブ)  
                  : 樋口珠由子氏(すみだクリエイターズクラブ)  
デザイナー : 秋山伸氏(有限会社エディションノルト)  
事務局 : 武藤奈津子(DAAS)  
撮影協力 : 長谷川逸子・建築計画工房
- (ク) 資料: インタビュー・撮影者・スタッフ向けの情報の収集及び必要資料  
資料1\_別添 インタビュー内容(シナリオ)  
資料2\_別添 インタビュー内容書き起こし  
参考資料1 プロフィールと主な作品・経歴表 ※インタビュー資料  
参考資料2 作品一覧 ※インタビュー資料

## インタビュー本編

### 長谷川逸子氏オーラルアーカイブ 撮影内容について (シナリオ案)

#### ■インタビュー内で紹介する建築作品 (案)

gallery IHA :

BY House 1985年竣工

当初、長谷川建築計画工房の事務所として竣工したが、2016年若者の支援の目的でギャラリー、レクチャールーム、模型展示などを行っている。

湘南台文化センター／不知火ストレスケアセンター／桑原の家／徳丸小児科  
／新潟市民芸術文化会館 等

#### インタビューでお話頂く内容

1. 建築を学ばれたきっかけについて
2. 菊竹清訓建築設計事務所での仕事について
3. 篠原研究室について
4. 最初の作品について
5. 長谷川逸子・建築計画工房 設立
6. 作品について
7. 公共建築の設計に対する思い
8. 次世代の若い方々を育成する
9. 模型・資料を残すこと＝アーカイブについて

#### ■インタビュー進行順・構成・キーワード

4. 最初の作品について：民家について がらんどろ
2. 菊竹さんとの出会い (スカイハウス) 菊竹事務所での仕事
3. 篠原一男研究室 (白の家)
5. 長谷川逸子・建築計画工房 設立 独立 住宅から公共建築へ
1. 建築を学ぶきっかけ：生まれ育った環境が建築設計に与えている影響
- 6-1. 作品 (独立後の住宅など) 桑原の家、パンチングメタル、ライトアーキテクチャーの先駆け
- 6-2. 作品 (新潟市民芸術文化会館)
- ランドスケープアーキテクチャー・アーキペラゴシステム・インクルーシブ・女性であること
7. 公共建築の設計に対する思い：市民参加への扉を開く
- 湘南台文化センターで起こったこと、市民参加のさまざまな側面 (絵本館、すみだ、珠洲など)
8. 次世代を育成する：ギャラリーの運営
9. アーカイブについて

映像

DAAS INTERVIEW vol. 014

**長谷川逸子**

Itsuko Hasegawa 2017

長谷川逸子 | Itsuko Hasegawa

建築家  
長谷川逸子・建築計画工房(株)主宰/早稲田大学、東京工業大学、九州大学非常勤講師  
ハーバード大学客員教授/王立英連建築協会名誉会員/ロンドン大学名誉学位  
アメリカ建築家協会名誉会員/英国王立芸術院ロイヤルアカデミー建築賞授与

[略歴]  
1941年 静岡県焼津に生まれる  
1979年 長谷川逸子・建築計画工房(株)設立、主宰  
1986年 日本文化デザイン賞、日本建築学会賞を受賞。  
2000年 第36回日本芸術院賞受賞。公共建築賞受賞。2  
2008年 フランスPont d'Issy周辺の再編成コンペ1等賞獲得。  
2018年 英国王立芸術院(Royal Academy of Arts)よりロイヤルアカデミー建築賞授与。







インタビュー: 六反田千恵 [長谷川逸子建築計画工房]  
撮影・編集: STUDIO DPP  
ディレクション: 三田大介/樋口珠由子 [すみだクリエイティブクラブ]  
作曲: 榎田竜路/演奏: 真荷舟  
撮影協力: 長谷川逸子建築計画工房  
写真: 株式会社新建築社  
制作著作: 建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム **DAAS**

---

## 2. バーチャルリアリティ(VR)を使った空間画像データの制作詳細と成果報告

---

本事業の作業行程と共に各作業での成果報告を記述する。

### 2.1. 撮影対象箇所の選定

#### 2.1.1. 中山邸

宮脇宮脇檀設計の中山邸(1983年)

住宅の老朽化に伴い解体・建て替えが決定した。施主の希望により多くの方に資料を残したいとことで全面的に協力を頂き、見学会と撮影が完了した。2017年解体

#### 2.1.2. 銀座ソニービルディング

芦原義信設計(1966年)東京都中央区の銀座に所在するビル。外堀通りと晴海通りの交わる数寄屋橋交差点に面している。今後、いくつかの経過を経て、建て替えが行われる。

芦原太郎元理事長からの声かけにより、解体直前の撮影が実現した。2017年解体

#### 2.1.3. 四谷コーポラス

佐藤工業設計(1956年)東京都新宿区に建てられた民間企業の初の分譲マンション。

DAAS 会員企業の呼びかけにより、解体直前の見学会にて撮影が許可された。2017年解体

### 2.2. 収録方法 詳細

#### 2.2.1. 撮影及び編集方法

高精細画像が収録可能な映像機材にて、連続した画像を撮影する。

#### 2.2.2. 映像の Web サイト公開用編集業務

DAAS-Web サイト上で操作した際に、方向転換、視点レベルの変更等の動作が可能な全方位を見渡す VR(バーチャル・リアリティ)データに編集(オーサリング)する。

## 2.3. 成果報告

### 2.3.1. 中山邸画像収録とコンテンツ制作

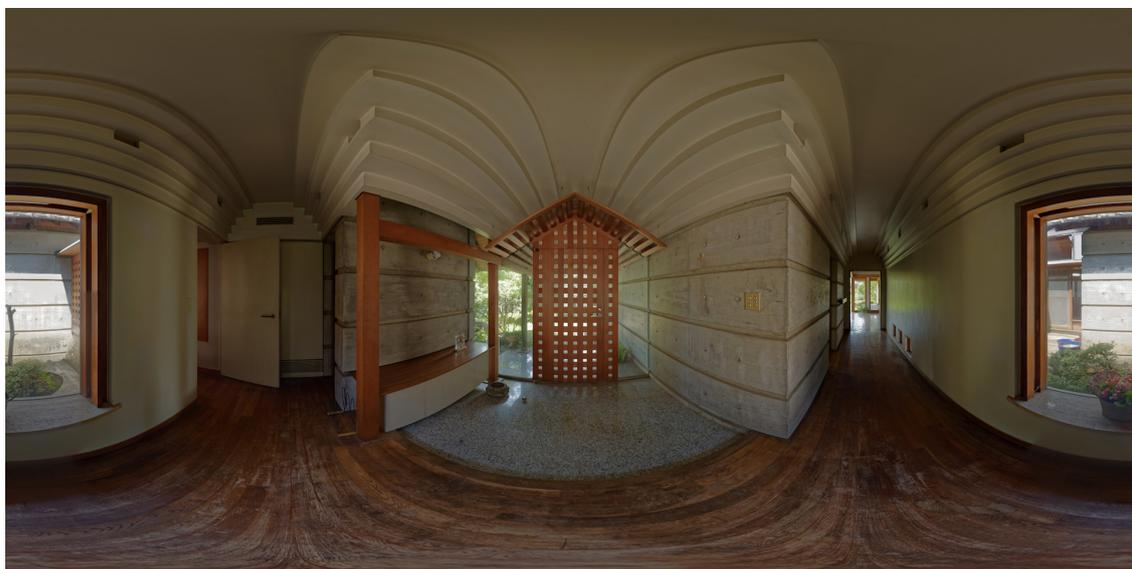
所在地:埼玉県川口市安行吉蔵 306

設 計:宮脇檀

竣工年: 1983 年

状 況:解体(2017 年)・建替

住宅の老朽化に伴い、解体が決定。約 770 坪という広大な敷地にたつ平屋の延床 244 m<sup>2</sup>の住宅。現在は周りに住宅が多く建ち、住宅地といった印象を受けるが、竣工当時は周囲には森が広がり、堀がめぐらされていたという恵まれた環境。長屋門を残したい、という住み手の希望から、住宅も瓦屋根が連なるものになったが、「この土地に合った日本の住宅をつくらうとは思ったが、和風の住宅をつくらうとは思わなかった」ということであり、宮脇檀のボックスシリーズの終焉ともいえる作品である。



### 2.3.2. 銀座ソニービルディング映像収録とコンテンツ制作

所在地:東京都 中央区銀座

設 計:芦原義信

竣工年: 1966 年

現 況:解体(2017 年)・建替

DOCOMOMO JAPAN 選定 日本におけるモダン・ムーブメントの建築に選ばれている。

東京都中央区の銀座に所在するビル。外堀通りと晴海通りの交わる数寄屋橋交差点に面している。正式名称は「ソニービル」である。ソニーが自社のショールームとして建築し、1966 年(昭和 41 年)4 月 29 日にオープンした。建築家は芦原義信、建設会社は大成建設。

モダニズム建築の重要建築物の一つであり、2003 年(平成 15 年)に、DOCOMOMO JAPAN 選定 日本におけるモダン・ムーブメントの建築に選ばれている。ビル平面は田の字状に四分割され、各階が「らせん状」につながるスキップフロア形式で構成されていた。

オープン当時は、外壁にはめ込まれた 2300 個のブラウン管を用いた電光文字表示、1 階のパネルヒーティング、日本一速いエレベーターなどで話題を呼んだ



### 2.3.3. 四谷コーポラス映像収録とコンテンツ制作

所在地:東京都 中央区新宿区四谷本塩町 10 番地

設 計:佐藤工業株式会社

竣工年: 1956 年

現 況:解体(2017 年)・建替

民間企業による初の分譲マンション。そのため、各住戸は改築されたものが多く、出来るだけ、当時の面影の残るものを撮影。



### 3. その他資料のデジタルデータ化作業成果

本事業の作業行程と共に各作業での成果報告を記述する。

#### 3.1. 収録方法 詳細

##### 3.1.1. 建築関連団体の受賞作品その他著名建築作品の緒言データ整備

これまでDAASで収録した1万点の建築資料については、建築関連団体の受賞作品や著名な建築作品についての貴重な資料である。しかし、その膨大な資料から検索をする為の緒言情報(メタデータ)については、建物の施工年が古いものや収録時の情報の不備等々があり、特に重要な建物の位置情報・住所情報は整備ができていない。

また現況(取り壊し、改築、移転、所在地の市町村合併等)確認も必要と考え、建物の現況と住所表記のデータ化に着手。価値ある建物の正確な所在地のデータ情報を整備する

##### 3.1.2. 図面資料のデジタルデータ化作業

事務所を閉められる予定の元倉真琴氏の図面資料について、散逸の危険があることから、物理的保存の関係先の検討と併せて、デジタルデータ化についての相談があり、DAASにてデータ化を行うこととなった。関係資料は約150点建物の詳細・メタデータについては、後日改めて管理するというので、取り急ぎデータ化作業を行う。

##### 3.1.3. 緒言データ整備方法

建物の名称、設計者、施工者の情報から、住所を検索する。またその住所から、位置情報(緯度経度情報)を探し、エクセルデータとしてまとめる。

整理した情報はWebサイトに掲載する為のエクセルデータにする。名称等の変更などがあれば併せて追記する。確認する項目とその確認内容は以下

訂正後名称	建物名称が変わったものについて、現在の名称も残しながら訂正後名称を追記する。
所在地/市町村	建物名、設計者情報から住所を検索する
所在地/以下住所	建物名、設計者情報から市町村以下の住所を検索(番地等)
訂正後 緯度経度	<p>確認した住所より緯度経度情報を以下のいずれかの方法で検索する。</p> <p>1) <a href="http://www.geocoding.jp/">http://www.geocoding.jp/</a>から住所をいれて検索する</p> <p>2) GOOGLE マップで住所を検索。右クリックし示された緯度経度のを確認</p>



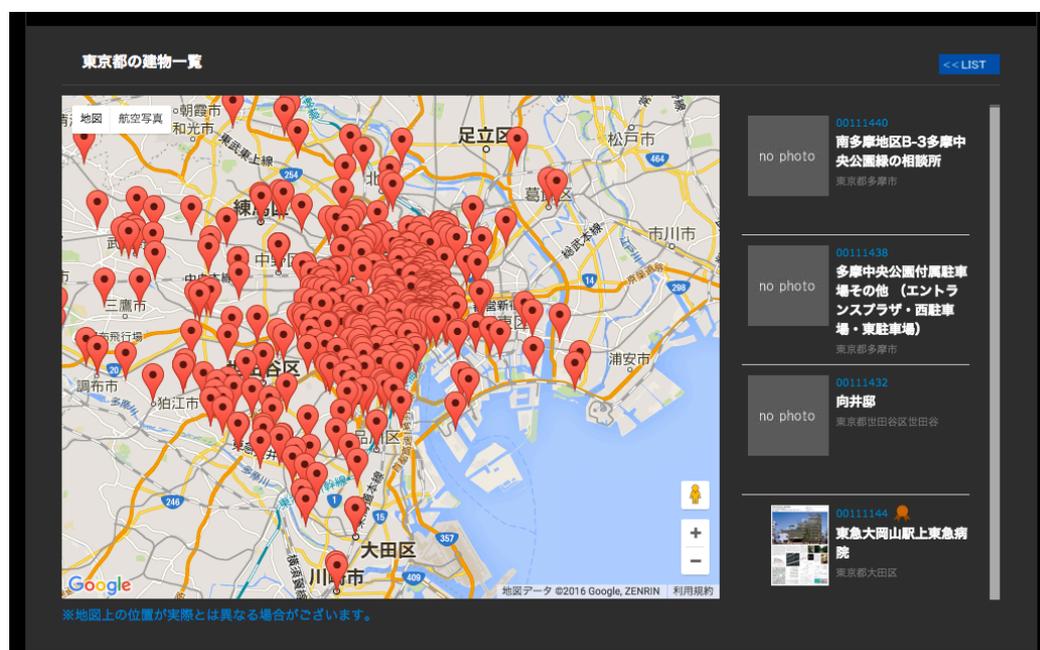
### 3.1.4. 図面資料のデジタルデータ化作業方法

DAAS 資料のデジタルデータ化の実績のある大日本印刷に依頼。図面のフラットリングを行った後、図面は破損の恐れがあるため、スキャナーではなく「撮影」を行う。撮影時にはカラーチャート及び、スケールを移し込み、現状の色合い、図面の大きさがわかるように撮影する。

## 3.2. 成果報告

### 3.2.1. 緒言情報データ整備

建築作品の「住所情報」「緯度・経度情報」のデータをまとめ、データを7. 報告書添付納品物(電子データ)の通り、電子メディアに収録・納品する。全体で 2900 件のデータについて全て見直しをおこなったが、そのうち、旧住所表記(1950～80 年代竣工の建物情報や、古い書籍の情報の写しであるため)、緯度経度情報の検索が全くできない、などの情報も多く、改めて再調査の優先度を決め「再確認のみ」としてよい情報、「詳細な調査が必要な情報」等々に内容を振り分けした。再調査の優先度が高い物は、優先度“高”としその中でも「県外の緯度経度をさしているもの」「住所が不完全な表記」等により段階をわけ、優先度の高い物から再調査対象としたが、その件数だけで約 1100 件となり、その他「コンペ等の情報のため、詳細の緯度経度が不明」「調査を行った物」等々の再確認も同様に行い、2900 件の情報を整理した。再調査し、整理された緒言情報は、DAAS-Web サイトに反映。これにより検索機能の「地図検索」についての精度をあげることができた。東京都などの建物が密集する地区では、周辺建物とともに著名建築の所在地を検索ができることとなった。このデータ化により、各地域の建物の見学・観光・町歩きなど新たな Web サイトの利用方法、活用方法などが見込まれる。



### 3.2.2. 図面資料のデジタルデータ化作業

資料の保全優先度を所有者にて設定をしてもらい、以下 4 作品の収蔵をすることとなった。緒言データの整備については、データ作成後検討することとし、取り急ぎファイル名をつけ、DAASの保存対象として収蔵を行った

デジタル化した図面(4 作品とその通し番号)

- ・岸上邸 40 枚 motokura\_kishi\_xxx(通し番号三桁)
- ・早川邸 20 枚 motokura\_haya\_xxx(通し番号三桁)・朝倉邸 44 枚 motokura\_asa\_xxx(通し番号三桁)
- ・堤坂邸 60 枚 motokura\_tsutsu\_xxx(通し番号三桁)

### 3.2.3. 成果物

詳細は、本報告書 7. 報告書添付資料(書類)及び 8. 報告書添付納品物(電子データ)電子メディアに収録し納品する。

## 4. 以上のコンテンツ掲載に必要な WEB サイトの機能追加

### 4.1. コンテンツの掲載の為の WEB サイトの機能改修・追加 作業概要

#### 4.1.1. データの追記及びコンテンツの説明ページの整備

今回本事業により追加されるデータや新コンテンツ掲載に対応する Web サイトの機能改善を行う。360° VR パノラマコンテンツの制作、オーラルアーカイブの掲載ページ等の追加である。本報告書には、以下項目について記載する。

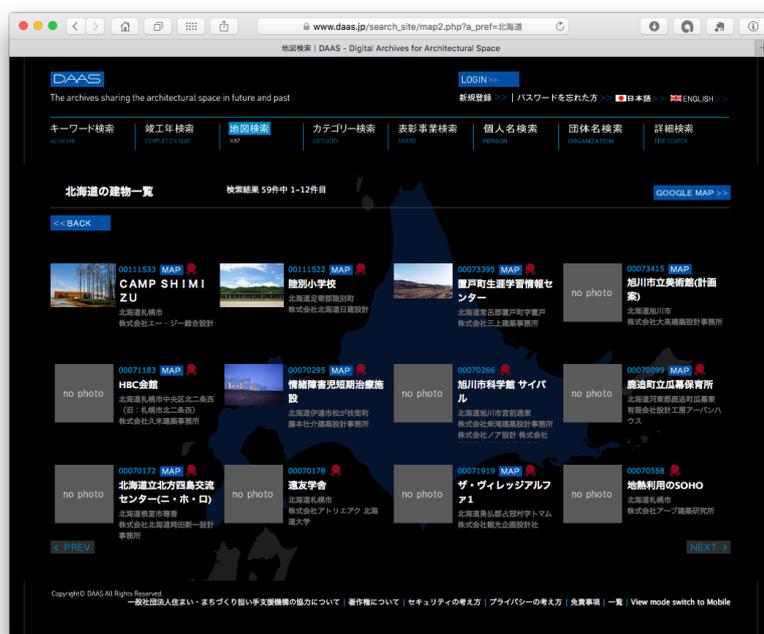
ユーザーインターフェース設計

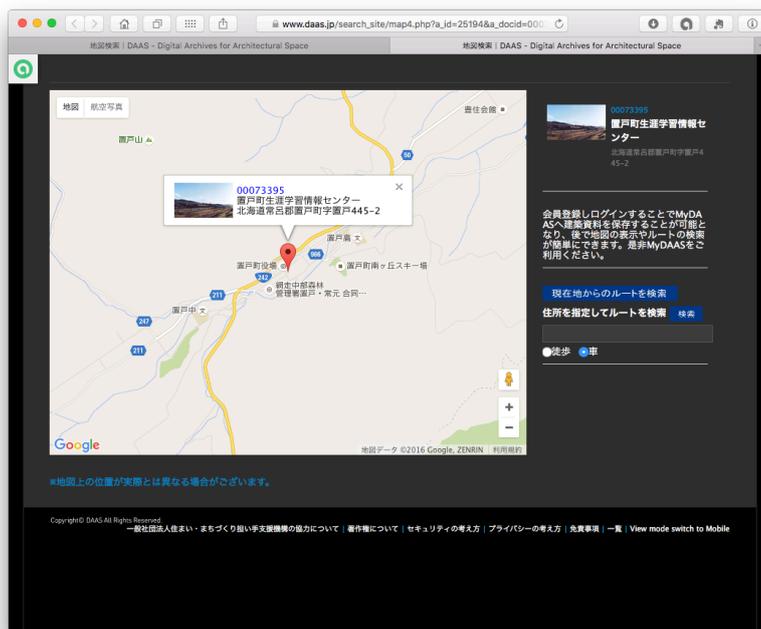
プログラム動作テスト(内容／結果)

### 4.2. ユーザーインターフェース設計

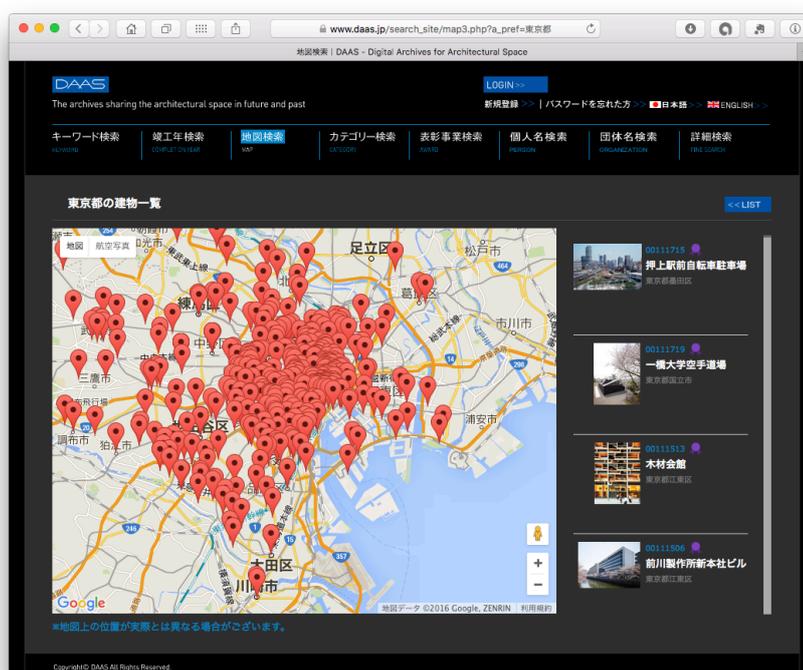
#### 4.2.1. 地図表示

キーワード検索、竣工年検索、地図検索、カテゴリー検索、表彰事業検索の全ての検索結果の【MAP】をクリックした際に、緯度経度を使用して地図を表示する。  
緯度経度情報が登録されていない建築情報は、新住所または現行住所を使用する。





地図一覧ページに緯度経度情報を使用してマーカーを表示する。  
緯度経度情報が登録されていない建築情報は、新住所または現行住所を使用する。



### 4.3. 新規ページイメージ



以上

## 第12期(2017-2018年)収支計算書(案)

2017年10月1日から2018年9月30日まで

(単位:円)

科目	予定額(a)	決算額(b)	差異(a-b)
<b>I 事業活動収支の部</b>			
事業活動収入			
1 会費・入金収入	6,090,000	5,980,000	110,000
企業会員	4,060,000	3,950,000	110,000
団体会員	2,000,000	2,000,000	0
学術・教育機関会員	30,000	30,000	0
個人会員	0	0	0
2 事業収入	3,050,000	3,079,880	△ 29,880
Webコンテンツ作成事業※	3,000,000	3,000,000	0
コンテンツ有償利用料	50,000	79,880	△ 29,880
3 その他収入	0	1,228	△ 1,228
受取利息	0	1,228	△ 1,228
雑収入	0	0	0
事業活動収入 計	9,140,000	9,061,108	78,892
事業活動支出			
1 事業費支出	4,520,000	4,718,721	△ 198,721
WEBサイト改修委託支出	550,000	0	550,000
イベント事業支出	0	0	0
コンテンツ整備事業支出	100,000	871,769	△ 771,769
サーバ管理委託費	870,000	846,952	23,048
Webコンテンツ作成事業/Web改修費用※	880,000	108,000	772,000
Webコンテンツ作成事業/VR制作費用※	440,000	648,000	△ 208,000
Webコンテンツ作成事業/オーラルアーカイブ制作※	1,200,000	798,440	401,560
Webコンテンツ作成事業/表彰事業整備・コンテンツ制作※	300,000	1,409,861	△ 1,109,861
Webコンテンツ作成事業/その他経費※	180,000	35,699	144,301
広報事業	0	0	0
保守費支出	0	0	0
2 管理費支出	6,008,000	5,917,759	90,241
事務所経費	0	0	0
人件費	4,080,000	4,080,000	0
法定福利費	700,000	821,451	△ 121,451
旅費交通費支出	230,000	241,702	△ 11,702
機材費支出	50,000	66,777	△ 16,777
通信運搬費支出	250,000	249,323	677
渉外費支出	0	0	0
会議費(含総会)支出	465,000	158,759	306,241
租税公課支出	0	0	0
会計士外部委託費支出	173,000	172,800	200
雑費支出	60,000	126,947	△ 66,947
事業活動支出 計	10,528,000	10,636,480	△ 108,480
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△ 1,388,000</b>	<b>△ 1,575,372</b>	<b>187,372</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>			
投資活動収入			
修繕引当預金取崩収入		0	0
その他固定資産取得収入		0	0
投資活動収入 計		0	0
投資活動支出			
修繕引当預金取得支出		0	0
その他固定資産取得支出		0	0
投資活動支出 計		0	0
<b>投資活動収支差額</b>		<b>0</b>	<b>0</b>
<b>III 財務活動収支の部</b>			
財務活動収支差額		0	0
<b>IV 予備費支出</b>			
予備費支出	3,859,022	0	3,859,022
<b>当期収支差額</b>	<b>△ 5,247,022</b>	<b>△ 1,575,372</b>	<b>△ 3,671,650</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>5,247,022</b>	<b>5,247,022</b>	<b>0</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>0</b>	<b>3,671,650</b>	<b>△ 3,671,650</b>

※一般社団法人すまいづくりまちづくりセンター連合会が実施した「優れた住宅・建築物のデジタルアーカイブスのWebコンテンツの作成等業務」を受託

# 監査報告書

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム規約第 15 条第 4 項の規定に基づき、建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアムの第 12 期(2017-2018 年度 2017 年 10 月 1 日から 2018 年 9 月 30 日まで)の業務報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録について監査を行った結果、正確かつ適正であることを認めます

2019年 7月 1 日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

一般社団法人 住宅生産団体連合会 会長

阿部 俊則



2019年 7月 2 日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

一般財団法人 日本建築センター 理事長

橋本 公博



議案2 第13期(2018-2019年)事業計画(案)  
及び収支予算(案)について

資料4 第13期(2018-2019年)事業計画(案)

資料5 第13期(2018-2019年)収支予算(案)

## 第13期(2018-2019年)事業計画(案)

## 1. 基本方針

DAASの基本活動の「Webサイト等基本システムの維持・管理」、「収集データの維持・保全」を通じて、公益的活動を継続する。活動にあたり、運営委員会の下に設置した「企画運営部会」の検討により事業を推進し、コンソーシアム運営について委員会等での議論を重ね、具体的な方針を示す。なお、第12期からの継続事業については、第13期での実施を目指す。

## 2. 事業計画

## (1) 「企画運営部会」を中心とした運営体制に係る検討

今後のDAAS活動に資する検討のため、外部機関、関係機関との協議の機会を増やし、意見徴収を積極的に行う。

## (2) Webサイト等基本システムの維持・管理

DAAS-Webサイト、DAAS基本システムの安定的な稼働体制を維持・継続する。サーバ保守業者による、サーバOS、周辺アプリケーションのセキュリティー対策プログラムを定期的に適用し、引き続きサーバ環境のセキュリティー対策を行う。

## (3) 収集データの維持・保全

「高精細画像データ」の事務局内保管分及び、遠隔地保管によるさらなる冗長性を確保する体制を継続する。新規収集コンテンツがあった場合には、同様の維持・保全措置を講ずる。

## (4) コンテンツの整備

動画収録、デジタルデータ作成

第12期同様、国庫補助金を活用したコンテンツを整備する。対象コンテンツは「企画運営部会」において検討するものとし、予算、納期等を考慮しつつ、実施可能なものから具体作業に着手する。

[前期より継続:コンテンツ整備事業(予定)※企画運営部会にて継続検討]

- ・団体等受賞作品の収集
- ・動画収録(DAAS収集作品の建築家、写真家等)
- ・VR(ヴァーチャルリアリティ)を利用した空間画像データ

## (5) Webサイトの改善

新規コンテンツ収集に必要な機能追加、検索機能の改善のための機能追加を実施。「(4)新規コンテンツの整備」と連動し、第11期よりの継続事業とする。

## (6) その他

- ①DAAS認知度向上等へ向けた広報等に係る活動
- ②その他DAASの目的に資する活動を実施する。

## 第13期(2018-2019年) 収支予算(案)

2018年10月1日から 2019年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額	参考:第12期予算額	第12期との差異
<b>I. 事業活動収支の部</b>			
<b>事業活動収入</b>			
1. 会費・入会金収入	5,660,000	6,090,000	△ 430,000
企業会員	3,630,000	4,060,000	△ 430,000
団体会員	2,000,000	2,000,000	0
学術・教育機関会員	30,000	30,000	0
個人会員	0	0	0
2. 事業収入	3,050,000	3,050,000	0
Webコンテンツ作成事業	3,000,000	3,000,000	0
コンテンツ有償利用料	50,000	50,000	0
3. その他収入	0	0	0
受取利息	0	0	0
雑収入	0	0	0
<b>事業活動収入計</b>	<b>8,710,000</b>	<b>9,140,000</b>	<b>△ 430,000</b>
<b>事業活動支出</b>			
1. 事業費支出	4,520,000	4,520,000	0
WEBサイト改修委託支出	550,000	550,000	0
イベント事業支出	0	0	0
コンテンツ整備事業支出	100,000	100,000	0
サーバ管理委託費	870,000	870,000	0
Webコンテンツ作成事業/Web改修費用	880,000	880,000	0
Webコンテンツ作成事業/VR制作費用	440,000	440,000	0
Webコンテンツ作成事業/オーラルアーカイブ制作	500,000	1,200,000	△ 700,000
Webコンテンツ作成事業/表彰事業整備とコンテンツ制作	800,000	300,000	500,000
Webコンテンツ作成事業/その他経費	380,000	180,000	200,000
広報事業	0	0	0
2. 管理費支出	5,953,000	6,008,000	△ 55,000
事務所経費	0	0	0
人件費	4,080,000	4,080,000	0
法定福利費	830,000	700,000	130,000
旅費交通費支出	240,000	230,000	10,000
機材費支出	50,000	50,000	0
通信運搬費支出	250,000	250,000	0
渉外費支出	0	0	0
会議費(含総会)支出	180,000	465,000	△ 285,000
租税公課支出	0	0	0
会計士外部委託費支出	173,000	173,000	0
雑費支出	150,000	60,000	90,000
<b>事業活動支出計</b>	<b>10,473,000</b>	<b>10,528,000</b>	<b>△ 55,000</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△ 1,763,000</b>	<b>△ 1,388,000</b>	<b>△ 375,000</b>
<b>II. 投資活動収支の部</b>			
<b>投資活動収入</b>			
修繕引当預金取崩収入	0	0	0
その他固定資産取得収入	0	0	0
<b>投資活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>投資活動支出</b>			
修繕引当預金取得支出	0	0	0
その他固定資産取得支出	0	0	0
<b>投資活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>投資活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>III. 財務活動収支の部</b>			
<b>財務活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>IV. 予備費支出</b>			
予備費支出	1,908,650	3,859,022	△ 1,950,372
<b>当期収支差額</b>	<b>△ 3,671,650</b>	<b>△ 5,247,022</b>	<b>1,575,372</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>3,671,650</b>	<b>5,247,022</b>	<b>△ 1,575,372</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

注)この予算書は消費税込みで計算しております

## 議案3 理事・監事選任の件

資料6 第13期・第14期 理事・監事名簿(案)

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)  
第13期・第14期 理事・監事名簿

(順不同 敬称略)

■理 事

仙田 満 (建築家)  
隈 研吾 (建築家)  
難波 和彦 (建築家)  
古谷 誠章 (建築家)  
竹脇 出 (一般社団法人 日本建築学会 会長)  
三井所 清典 (公益社団法人 日本建築士会連合会 会長)  
佐々木 宏幸 (一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会 会長)  
六鹿 正治 (公益社団法人 日本建築家協会 会長)  
押味 至一 (一般社団法人 日本建設業連合会 副会長)  
井上 勝徳 (公益財団法人 建築技術教育普及センター 理事長)  
吉田 信之 (株式会社 新建築社 代表取締役)  
千鳥 義典 (株式会社 日本設計 代表取締役 社長執行役員)  
亀井 忠夫 (株式会社 日建設計 代表取締役社長)  
南川 陽信 (大和ハウス工業株式会社 上席執行役員 建築系設計推進部長)

■監 事

阿部 俊則 (一般社団法人 住宅生産団体連合会 会長)  
橋本 公博 (一般財団法人 日本建築センター 理事長)

# 報 告

資料7 会員名簿変更について

資料8 規約第7条第4項に基づく指定代表者の  
変更について

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)  
会員名簿

(順不同 敬称略)

榎 文彦 (建築家)  
 仙田 満 (建築家)  
 隈 研吾 (建築家)  
 難波 和彦 (建築家)  
 古谷 誠章 (建築家)  
 竺 覚暁 (金沢工業大学教授 金沢工業大学建築アーカイブス研究所顧問)  
 竹脇 出 (一般社団法人 日本建築学会 会長)  
 三井所 清典 (公益社団法人 日本建築士会連合会 会長)  
 佐々木 宏幸 (一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会 会長)  
 六鹿 正治 (公益社団法人 日本建築家協会 会長)  
 押味 至一 (一般社団法人 日本建設業連合会 副会長)  
 阿部 俊則 (一般社団法人 住宅生産団体連合会 会長)  
 橋本 公博 (一般財団法人 日本建築センター 理事長)  
 井上 俊之 (一般財団法人 ベターリビング 理事長)  
 森高 英夫 (一般社団法人 日本建築構造技術者協会 会長)  
 井上 勝徳 (公益財団法人 建築技術教育普及センター 理事長)  
 野部 達夫 (一般社団法人 建築設備技術者協会 会長)  
 吉田 信之 (株式会社 新建築社 代表取締役)  
 清水 琢三 (五洋建設株式会社 代表取締役 社長)  
 山口 俊男 (株式会社 奥村組 取締役専務執行役員)  
 千鳥 義典 (株式会社 日本設計 代表取締役 社長執行役員)  
 成川 哲夫 (新日鉄興和不動産株式会社 取締役相談役)  
 小涌 雅人 (前田建設工業株式会社 建築事業本部 建築設計統轄部長)  
 栗山 茂樹 (清水建設株式会社 専務執行役員 設計本部長)  
 内山 和哉 (積水ハウス株式会社 常務執行役員 東京支社長)  
 河野 晴彦 (大成建設株式会社 専務執行役員 設計本部長)  
 川合 智明 (株式会社 竹中工務店 執行役員 設計本部長)  
 亀井 忠夫 (株式会社 日建設計 代表取締役社長)  
 賀持 剛一 (株式会社 大林組 執行役員 設計本部長)  
 尾崎 勝 (鹿島建設株式会社 専務執行役員 建築設計本部長)  
 副島 伸一 (住友不動産株式会社 東京東ビル事業部長)  
 藤田 秀夫 (株式会社 山下設計 代表取締役社長)  
 大堀 正博 (三井不動産株式会社 建設企画部長)  
 碓氷 辰男 (東京建物株式会社 常務取締役)  
 近藤 伸彦 (株式会社 日建学院 代表取締役社長)  
 南川 陽信 (大和ハウス工業株式会社 上席執行役員 建築系設計推進部長)  
 村井 純 (慶應義塾大学 環境情報学部長)

## 建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム（DAAS）法人会員指定代表者変更

（建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム規約 第7条第4項 関係）

（敬称略）

## ■ 企業会員

前田建設工業株式会社

〈変更前〉 鈴木 章夫（執行役員 建築事業本部 企画・開発設計部長）

〈変更後〉 小涌 雅人（建築事業本部 建築設計統轄部長）

株式会社大林組

〈変更前〉 山本 朋生（執行役員 設計本部長）

〈変更後〉 賀持 剛一（執行役員 設計本部長）

株式会社日建学院

〈変更前〉 西生 一次（代表取締役社長）

〈変更後〉 近藤 伸彦（代表取締役社長）

大和ハウス工業株式会社

〈変更前〉 南川 陽信（執行役員 技術本部住宅系設計推進部長）

〈変更後〉 南川 陽信（上席執行役員 建築系設計推進部長）

## ■ 団体会員

一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

〈変更前〉 佐野 吉彦（会長）

〈変更後〉 佐々木 宏幸（会長）

一般社団法人 住宅生産団体連合会

〈変更前〉 和田 勇（会長）

〈変更後〉 阿部 俊則（会長）

公益財団法人 日本建築技術教育普及センター

〈変更前〉 鈴木 眞生（理事長）

〈変更後〉 井上 勝徳（理事長）

## ■ 学術会員

一般社団法人 建築学会

〈変更前〉 古谷 誠章（会長）

〈変更後〉 竹脇 出（会長）